

第1回 高知県地域公共交通活性化協議会 路面電車あり方検討会 議事概要

日時：令和7年6月5日（木）10：00～11：30

会場：高知共済会館 桜（会場・WEB併用方式）

出席：14名

委員12名 西内会長、森本副会長、松岡副会長、一色委員、片庭委員、濱田委員、
樋口委員、鈴木委員、坂本委員、森山委員、中村委員、黒岩委員

代理出席2名 高知市：林政策企画部長、南国市：田所企画課長

1 開会

2 挨拶・総括説明

総括説明資料により、松岡委員から説明

3 議事

（1）委員紹介

（2）規約及び予算について

（3）会長選任

事務局から、会長に高知工科大学西内委員、副会長に早稲田大学森本委員、高知県松岡委員を推薦

→事務局案のとおり承認

4 協議事項

（1）路面電車・路線バスの現状及び課題について

（2）路線バスの検討について

【主な意見等】

- ・都市計画マスタープランや立地適正化計画における公共交通の位置づけはどうか。
- ・地方の人口減少、これは構造的な問題なので改善は難しい。
- ・コンパクトなまちづくりと公共交通の再生という議論がタッグを組まないと、問題は解決しない。

（3）路面電車あり方検討会の設置について

（4）調査事業について

【主な意見等】

- ・利用者アンケートの範囲はどのあたりか。
- ・パーソントリップ調査は、最近実施されていないので現状の交通需要を把握し、それに基づいて将来を予測していくことが必要。
- ・とさでん交通の維持管理費用は、計画と実態で大きな乖離がある。行政計画として、一定程度の先行投資が必要。
- ・この検討会の最終的なアウトプットとして公共交通事業者を助けるという点に持って行くべき。

- ・調査を実施するにあたって、潜在需要を把握することが必要。若者やインバウンド、マンション需要等の沿線種地の活用など、潜在需要の掘り起こしにより沿線人口が増加する可能性がある。
- ・改善施策については、利用者にとっての改善が、事業者にとって不利益になることもあるため、「何の改善か」の整理が必要。

(5) その他

森本副会長から、宇都宮市のL R T導入効果について説明

5 閉会